

授業科目	臨床心理査定演習Ⅱ		担当教員	平川 忠敏・古賀 靖之	
展開方法	講義・演習	単位数	2単位 必修	開設時期	1年次 後期
【授業目標】					
<p>本演習Ⅱでは、人間の心理査定について理解を深め、心理臨床実践活動において十分に活用できるようになることを目的とする。前期の臨床心理査定演習Ⅰに引き続いて、臨床心理査定のための代表的な心理検査法について解説し、それらの検査の実施方法、結果の整理方法、解釈の基本的な考え方、所見の書き方などについて、学生同士で演習を行う。そしてさらに、臨床心理士としての心理臨床活動が実践できるための専門知識と技術の修得を図る。</p>					
【授業方法】					
<p>講義と演習形式によって、受講生同士による心理検査器具を使用しての学習を行う。</p>					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 知能検査法② WISCⅢおよびWISCⅣの実施（演習） 2. WISCⅢおよびWISCⅣの結果の整理、分析・解釈、所見について 3. 知能検査法③ WAISⅢの実施（演習） 4. WAISⅢの結果の整理、分析・解釈、所見について 5. ITPA 言語能力検査法の実施（演習） 6. ITPAの結果の整理、分析・解釈、所見について 7. 日本版リバーミード行動記憶検査の実施（演習） 8. 日本版リバーミード行動記憶検査の結果の整理、分析・解釈、所見について 9. 内田クレペリン精神検査法の実施（演習）、結果の整理、分析・解釈、所見について 10. PFスタディ・絵画欲求不満テストの実施、結果の整理、分析・解釈、所見について 11. SCT文章完成法の実施（演習）、結果の整理、分析・解釈、所見について 12. TAT診断法について 13. ロールシャッハ・テストについて 14. 心理臨床事例における心理検査法の実際 15. まとめと総括 					
【評価方法】					
<p>受講生の演習への取り組み、各心理検査の結果の整理、分析・解釈、所見等に関するレポート提出、修得の程度によって評価する。</p>					
【教科書・参考書】					
<p>教科書 参考書 授業の中で、随時紹介する。</p>					
【学生に期待すること】					
<p>受講生の積極的な取り組みを期待する。</p> <p>シラバスを参考にして講義内容に関する事項および参考文献などを調べておくこと。また、講義の後、授業内容を吟味し、更に関連する文献を検索し、検討する。</p>					